みんなのひろば

▶女子一般走高跳で大会新記録。ほかにも4種目で大会新記録を樹立。「第10回所沢市陸上競技選手権大会」。10月18日(日)／早稲田大学織田幹雄記念陸上競技場（撮影：市民カメラマン・八木豪彦）

所沢市民フェスティバル

10月24日(土)・25日(日)／所沢航空記念公園等
第30回の節目を迎えた市民フェスティバル。会場は例年にも増して盛り上がりました。

▶所沢をイメージした曲「WING OF LOVE」をJULEPSと南陵中学校合唱団が来場者と共に大合唱。

▲「太鼓フェスティバル」のリズムにお祭り気分も高まります。
（撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎）

◀ミューズ特設ステージの風船パフォーマンス。みんなの夢も膨らみました。
（撮影：市民カメラマン・伊藤磨紀子）

▲夕暮れの庭園で伝統芸能の能楽に親しむ「茶室で親しむ能楽講座」。11月3日(祝)／彩翔亭（所沢航空記念公園）
（撮影：市民カメラマン・津田資雄）

▶あこがれの選手が直接指導。めざせ！ワールドカップ。「ブラジルコーナー・サッカー教室」。
（撮影：市民カメラマン・箕輪香里）

誰でもエッセイ

◆テーマ「マイブーム」

「エコ」がマイブーム

宮本町　大島　良英

「生ゴミ堆肥（たい）ですてきに土づくり」という本を見ながら、ベランダでキャベツを育てています。

近所のお米屋さんに米ぬかを分けてもらい、ついでに土の作り方も教えていただいて、見よう見まねでやっています。堆肥の効果が現われたのか、心なしかキャベツの育ちがいいように感じます。

少しは「エコ」に役立てばと、マイブームを楽しんでいます。

「マイブーム」は「マイライフ」

若狭　伊藤　佳子

歌を歌う楽しみが私の胸の内に湧き、今はすっかりそのとりこになってしまった。

お仲間は皆、中高年者のコーラスでの集いの仲間。声を聴くと、いずこかの女子高の部屋から流れてくる様なすがすがしい歌声。

ただいま12月の発表会に向けて猛特訓中。昨年、子どもたちや大人たちまでにも夢を与えブームとなったアニメ「崖の上のポニョ」の歌が、再び17人の歌声に楽しくのる。秋の夜長にカセットをかけ自主トレ。

「マイブーム」は今や「マイライフ」でもある。歌は優しくほほえみ、強く生きなさいと私の心にささやく。

「マイブーム」にのって

和ヶ原　田中　隆清

サラリーマン生活で家庭を持ったころはアパート住まいだった。都下から都心への通勤を楽しくも思ったが、家賃を払い続けることにむなしさを感じていた。緑の多い郊外には建売住宅が増え、毎日のようにローン返済を強調した住宅販売のチラシが目立っていた。

妻の両親も将来を考え自分たちの家を持つことに賛成してくれ、たくさんの地域の下調べに出歩いてもらった。マイホームブーム到来の走りらしく不動産業者は熱心な宣伝を繰り返していた。好条件で確かな物件選びには多くの時間を費やした。努力の結果は緑の多い私鉄沿線の所沢に決まり、幸い長女の出産も新居にて迎えることができ親戚一同と祝いの行事ができた。今はうれしい思い出です。

歴史再発見　ところざわの文化財 ㊴

住民自治の原点を示す貴重な資料

～勝海舟書「求友館」扁額～

「求友館」は、明治時代の自由民権運動の展開の中で、旧所沢町内の有志者が集った政治的社交の集会場です。自由民権運動は、明治10年代を中心に展開した地域住民の民主主義的要求運動で、この時期、新聞や雑誌の普及とともに各地に広がっていきました。

所沢地域においても明治15年（1882）ごろから町の有志者によって政談演説会が、学校や芝居小屋などで開催されはじめましたが、次第に公開場の建設要求が高まっていきます。

明治21年10月、所沢の有志者は、求友館の建設を決議。規約には毎月1回集会し、「相互二知識ヲ交換シ、商業及ビ経済、衛生、其他学術ノ談話」を行うとあります。翌年2月に建設費約656円で完成し、以降所沢地域における政治運動の拠点となりました。

しかし、その役割も明治25年ごろまでで、その後は主に町内集会の場となっていきました。現在は、名称も元町東公民館となっていますが、毎月1回の集会は、今も続いています。

勝海舟が揮こうした「求友館」の扁額は、かつてこの公民館の正面に掲げられていました。為書に「齊藤氏之嘱」とあり、勝海舟が当時の有志者の1人であった齊藤与惣次の求めに応じて書いたことがわかります。

現在も同公民館内に掲額され、所沢市の指定文化財となっています。

問い合わせ　文化財保護課☎2998－9253

▲勝海舟書「求友館」扁額

エコ・モビリティでいこう！

交通ルールを守り安全運転に心がけ　楽しい自転車ライフをしてみませんか

秋から冬は食べものがおいしい季節。ついつい食べ過ぎてしまいますね。ダイエット効果も高い自転車で通勤・通学はいかがですか？自転車は環境にも健康にもやさしい乗りものですが、交通事故のうち約2割は自転車が関係しています。安全運転を心がけましょう。

◆自転車は道路のどこを走るの？

自転車は車両の一種です。車道と歩道の区別のあるところは、原則として車道の左側端を走りましょう。「並進可」の道路以外で並んで走ることや二人乗り**（注）**は禁止です。歩道を走ることができるのは、①「歩道通行可」の標識等がある場所②高齢者（70歳以上）や児童（13歳未満）③車道を走るのが危ないときだけです。ただし、歩道は歩行者のための道ですから、スピードの出しすぎや歩行者の間をすり抜けるなどの危険な運転は禁物です。**（注）6歳未満の子どもを乗せる場合などを除く**

◆ベルはいつでも鳴らしていいの？

警音器（ベル）は見通しのきかない交差点や道路標識等で指定された場所、危険防止でやむをえない場合に鳴らします。歩行者にどいてもらうために鳴らすものではありません。歩行者の通行を妨げる場合は一時停止しましょう。

◆夜間走行は明かりをつけましょう！

夜間はライトと尾灯（反射鏡など）を必ずつけましょう。暗くなりかけたら、ライトを点灯し自分の存在を知らせるのも事故を防ぐポイントです。

◆お酒を飲んで自転車に乗ってもいいの？

自転車も酒気帯び運転は禁止です。「飲んだら乗るな！乗るなら飲むな！」です。

問い合わせ　環境課総務課
☎2998-9133　FAX2998-9394

エコ・モビリティとは、環境にやさしい移動の仕方を意味する造語です。

みんなで止めよう温暖化　チーム・マイナス6%　所沢市は温暖化対策をすすめます

ぱっとつ野老（ところ）っ子

あきらめなければ夢は叶う！

平沢　直樹さん（山口在住）

12月6日(日)第20回所沢シティマラソン大会が開催されます。今年は過去最高の7,500人のランナーが師走の所沢を走り抜けます。今回はその参加者の一人であり市民ランナーとして活躍されている平沢直樹さんをご紹介します。平沢さんは、年に約15回ものフルマラソンに出場し、フルマラソンの自己記録は2時間21分42秒、優勝回数は25回を誇ります。最近では、ジブラルタルで行われた50kmもの距離を走るウルトラマラソンの世界大会に、唯一の日本代表として出場し、起伏の激しい過酷なコースを完走しました。

頑強に見える平沢さんですが、小学生のころはとても太っていて、「運動が大の苦手で、運動会やマラソン大会は嫌いでした」と当時を振り返ります。中学生になってバスケットボール部に入部すると、走るのがどんどん速くなり、走ることが好きになりました。そして高校生になって本格的にマラソンを始め、今日まで努力に努力を重ねた結果、市民ランナーでありながら世界をも舞台に走るようになりました。「今は走るのが遅くても、努力し続ければいつの日かは世界チャンピオンにだってなれる！ということを、走りを通じてたくさんの子どもたちに伝えたい」と熱く語る平沢さんの夢は、子どもたちのスポーツ振興に貢献することだそうです。

平沢さんには第15回所沢シティマラソン大会での忘れられないエピソードがあります。実は大会前日にお母さんが他界されました。それでも大会に出場し、見事優勝しました。「出場を辞退しようか迷いましたが母は誰よりも自分のマラソンを応援してくれていたので出場を決意しました。優勝のゴールテープを切った後はうれしさと悲しさで涙が止まりませんでした」と話してくれました。その大会では、お母さんが希望していた「所沢山口小OB」のロゴをユニフォームの胸につけて走りました。『私を応援してくれる仲間や支えてくれる家族に感謝し、あきらめなければ夢は叶う！』という想いを胸に、今年最後のレースを地元所沢のシティマラソン大会で締めくくります。

平沢さんをはじめ、たくさんの市民ランナーが健脚を披露する所沢シティマラソン大会、皆さんも沿道で声援を送りましょう！

▲提供：JUA(日本ウルトラランナーズ協会)

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『こたつ』▶文章は添削あり▶締め切りは12月8日(火)必着▶掲載者には記念品を進呈▶投稿写真・原稿は返却しません

◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所広報課「みんなのひろば」係へ郵送またはEメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。